

2010年12月3日

市町村議会議長 様

「福祉灯油」の実施を求める陳情

団体名 岩手県生活協同組合連合会

代表者名 会長理事 加藤 善正

団体名 岩手県消費者団体連絡協議会

代表者名 会長 高橋 克公

〔陳情趣旨〕

現在原油は、1 バレル 75～87ドルの高値で推移しておりさらに高騰していく勢いです。08年、09年と私たちを苦しめた「投機マネー」流入による暴騰を思わせる憂慮すべき状況となっています。しかし一方で、円相場は、15年半ぶりの高値を更新し続け、10月の月間平均は1ドル82円台になり、戦後の最高値となりました。

こうした情勢の中では、原油は輸入した円建てでの価格で考えるべきで、CIF価格（保険料と運賃を上乗せした価格）は昨年同等かむしろ下がっています。しかし、灯油1缶18ℓの配達価格は、昨年1,200円台だったものが、今年は1,300円台後半から1,400円台の価格となっており、今後さらに上がる見込みです。円高差益還元がないばかりか、灯油代が上がることには怒りと不安を覚えています。

県民の暮らしはますます苦しくなっており、中でも弱者救済策としての「福祉灯油」の実施が欠かせません。08年に県内の全市町村が「福祉灯油」を実施してくれたときは、本当に助かったとの声がありました。しかし、09年度は秋口の灯油価格が08年度のような異常高騰にはあたらないとの見解があり、「福祉灯油」実施は2市町だけでした。しかし、一冬通してみると09年冬も08年冬と同程度の高い価格でした。今冬は08・09年以上の負担が予想されています。

つきましては、町として以下の実施をお願いいたします。

〔陳情項目〕

1. 社会的・経済的弱者への救済策としての「福祉灯油」の実施をお願いします。